

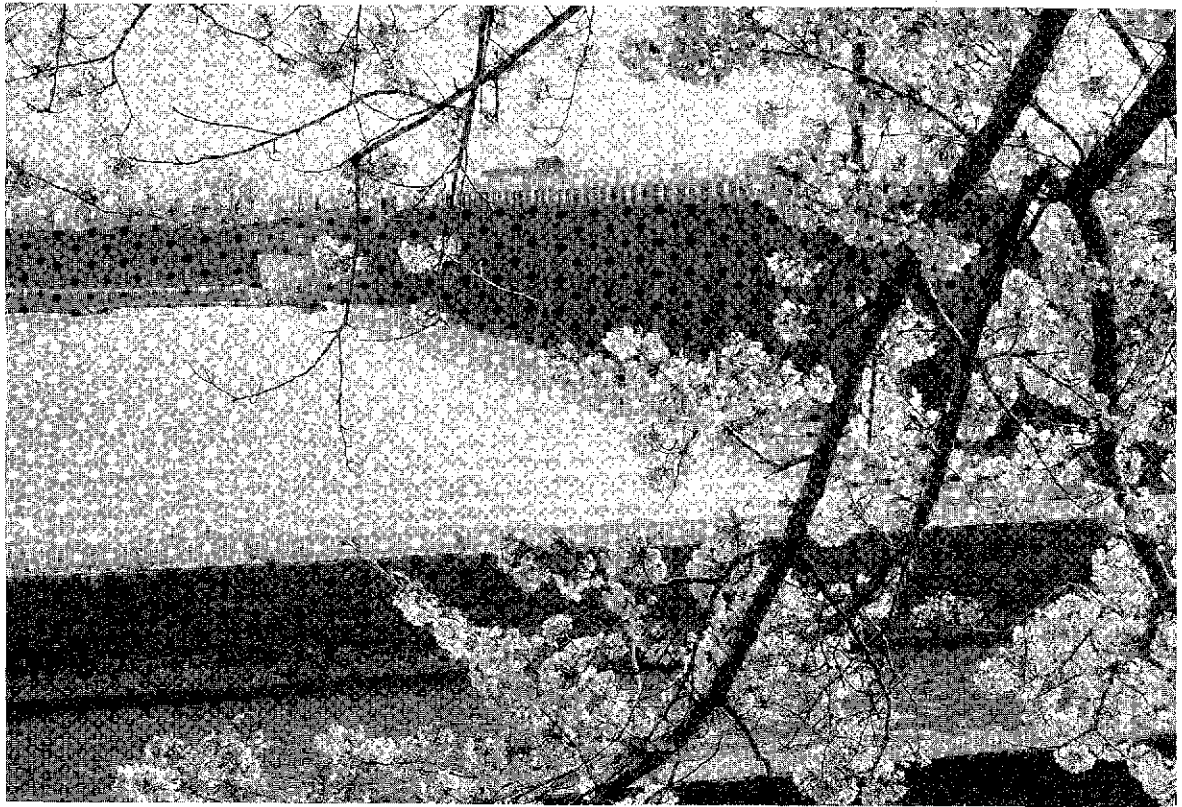
新潟県

平成4年

公民館月報

4月
第470号

特集 公民館に期待する



幾千春

変わらで匂へ桜花

植えにし人は

よし散りぬとも

田辺実入

昭和六年（一九三二年）大河津分水可動堰が完成、以来、下流部は水禍に見舞われることはなくなつた。

この短歌の作者は、白根市の人。親子二代にわたり信濃川治水に尽力、大河津分水工事の完成に貢献した。

一九二八年没 七十八歳

（写真と解説提供

分水町公民館）

郡市公連事務局長会議開催

懸案の主事会 結成に向けて踏み出す

記念講演は清水 明氏(県生涯学習推進課長)

三月十日(火)、新潟市中央公民館を会場に、平成三年度の郡市公連事務局長会議が開催された。あいにく、県主催の事業と重なったこともあってか、出席者は24名と必ずしも多

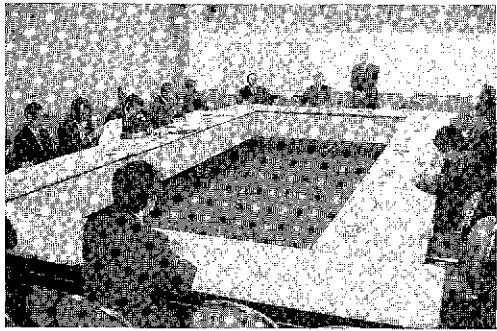
くはなかったが、各都市間の情報交換並びに、主事会再結成に向けての具体策について終始熱のこもった話し合いがなされた。

また、県教育庁生涯学習推進課長清水明氏を迎え「公民館に期待する」というテーマでの講義を受け、(講義要旨は四・五面に掲載)午後三時に閉会した。

出席者各自の自己紹介に続き、座長に本間茂雄氏(新潟市関屋地区公民館長)が推薦され、協議が進められた。

各郡市公連の平成三年度の連携事業、研修、予算状況等の情報交換に続いて、この会の主要協議題としての、当県公連内部組織として「主事会」を再結成することについて活発な意見が取り交わされた。

この件は、昨年度の当会議(平成三年三月八日開催)で問題が提起されたもので、今年度の前後二回にわたる評議委員会で検討がな



され、再結成が認められ、事務局に準備を任されていたものである。

関プロ公連理事会開催

公研集会を公研大会に

去る二月二十六日(水)、関東甲信越静公民館連絡協議会理事會が、大宮市ソニックシティで開催された。

主な議題は、「関プロ公研集会」のもち方についてであった。

事務局長の趣旨説明のあと、活発な意見交換がなされ、再結成の重要性がここでも再確認された。その結果、各郡市公連から一名の代表を選出し、「主事会結成準備委員会」を組織し、規約・役員構成等を検討する。最終的に、第二回評議委員会で報告承認を得られるように進めるといふことになった。

これは、現在の方式が関プロ管内を一巡したことを契機に、見直しを図ったもので、かねて、代表者会議で検討を進めてきた案を本理事会で正式に決めたものの。その内容は次の事である。
一、これまでの「研究集会」を「研究大会」とする。したがって、次回埼玉県秩父集会は「第33回関東甲信越静公民館研究大会」となる。

その趣旨は、従来の研究的性格はそのまま維持していくものの、時に応じて(必要あれば)国に対する要求等について「宣言・決議」をするなどのアピール活動を可能にしたもの。ちなみに、全公連の場合は、研究集会和振興大会とが別個に開催されている。

(以下三四段へ)

新任公民館職員におすすめするハンドブック

公民館関係法令・解説 公民館経営の手引

A5判 34ページ
300円(送料実費)

B5判 62ページ
500円(送料実費)

申込先 ☎951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 ☎025-(224)-6073

新潟県生涯学習推進センター 八月にオープン予定

「新潟県生涯学習推進センター」が新潟県立図書館に併設して設置される。このセンターは施設自体を県民の学習活動の場とするに重点を置くものではなく、市町村等を支援することにより、県民全てに均等である意義な学習機会や学習情報を提供し得る等の機能を重視したものであるとしている。

1、組織
学習情報課と学習振興課の二

3、主な事業

1、343㎡
2、335㎡
3、235㎡

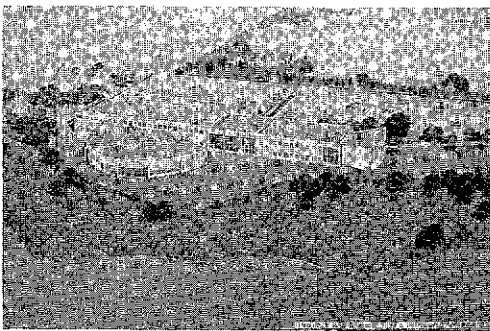
(3) 学習指導者の発掘・養成・活用を図るための研修体系的整備。

課体制とし、職員は11名(うち社会教育主事9名)を配置。	2、規模	事務室等(事務室、資料閲覧室、学習相談室)	340㎡
		試験関係(コンピュータリ研	600㎡
		修室、スタジオ等)	600㎡
		研修室(大研修室、小研修室)	168㎡
		ホール	235㎡
	合計		1,343㎡

(1) 高等学校開放講座や県内の大学、県の他部局、市町村等の実施する講座等を体系化した知事を学長とする「いきいき県民カレッジ」の開設。

(4) 学習相談体制の整備や生涯学習に関する調査研究。

また、カレッジ開設と合わせて、市町村事業等のプログラム診断指導による学習機会の質的向上を図るとともに民間有志指導者を育成する。
(2) 地域試験ライブラリーを活用した生涯学習情報提供システムの開発準備。



竣工想定画

辛口

私が鳥屋野公民館主催の「家庭教育学級」明日の親を考へる」に

公民館で出合った仲間たちとの触れ合いや、多くの人々の助言があつたからこそ感謝しています。

公民館で出合った仲間たちとの触れ合いや、多くの人々の助言があつたからこそ感謝しています。

公民館で出合った仲間たちとの触れ合いや、多くの人々の助言があつたからこそ感謝しています。

公民館に保育体制を

武田 早苗

今、幼い子を背にして子育てに悩んでいるお母さんたちにお伝えしたい。公民館に来て、皆さんの素敵な人達に出会い、そして、余裕をもって育児に当る

今、その都度、他の利用者に対して保育ボランティアをする現状には疑問を持ちます。保育室の拡充をともては言いませんが、ぜひ保育室に専任の保育さ

公民館を軸に人と人との触れ合いの輪が広がり、やがて地域文化を高めることになるのではないのでしょうか。(グループアイ・エヌ・ジー)

(二面から続く)
二、参加費について、資料代千五百円はこれまでどおりとし、記録集(千五百円)を全員購入制とし計三千円とする。また、宿泊については、これまでのような参加者全員による宿泊交流交歓会の原則を廃止し、参加者によって適宜に宿泊施設を調達することになった。ただし、主管公連では「希望者には宿泊を斡施する」とし、宿泊費はおよそ五万円程度になるよう努めることになった。

地域住民への思いやりと

あたたかいコミュニケーション

公民館
自治館

総合補償制度

加入受付中

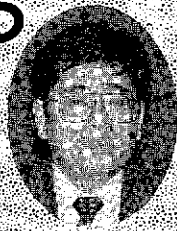
取扱店 安田火災海上保険(株)新潟支店 TEL.(025)225-1812

県民の生涯学習に関する意識

—調査結果にみる特色—

県では、平成4年度に「生涯学習推進基本構想」を策定する方針で、県民の生涯学習に関する最新の意識等を把握するため、県内の20歳以上の男女千五百人に対して調査を実施しました。なお、昭和58年にも同様な調査を行っており、それと比較すると次のとおりです。

1 休日の自由時間の過ごし方(図1参照)では、趣味・娯楽やショッピング、スポーツなど積極的な過ごし方が増加しております。



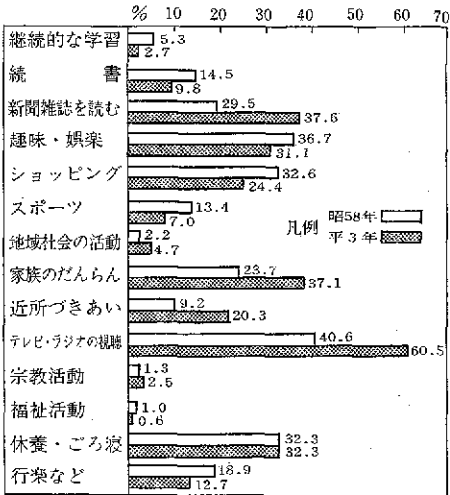
清水 課長

期待する

清水 明

長会議における講義要旨。 学習推進センター」について

<図1> 休日の自由時間の過ごし方



しかしながら、県民の学習需要が量的に増大し、高度化多様化しているのに、集団学習の送り手側の対応が十分でないことから個人学習へと流れつつある、あるいは、仕事等で忙しい人たちは、開設時間等の配慮がない限り集団学習に参加しにくいというところも考えられます。

個人学習、集団学習のどちらがよいとか悪いとかい

また、それを受けて、その翌年には、同じ推進会議から、「生

2 学習活動の有無に関しては、全体的に漸増の傾向にありますが、活動率について都市部と町村部とで格差があることから、今後町村部に対する一層の配慮が必要でしょう。

3 学習形態では、「個人学習」を主とする人が増加しており、学習方法(図2参照)では、「公的機関、地域団体、農協・商工会の学級・講座」が減少してい

4 学習内容(図3参照)については、性別年代別に特色があり、一様ではありませんが、前回一位、二位を占めていた手

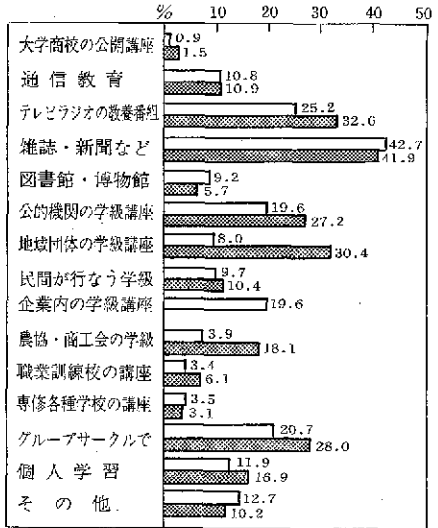
公民館に期待すること

—生涯学習推進の諸提言から—

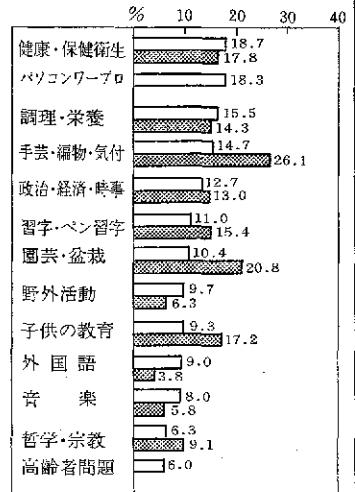
5 行政に望むことでは、前回に引き続き「身近なところに施設を」という要望が最も多くなっています。

芸・編み物や園芸・盆栽が減少するなど多様化の傾向が強くなっています。

<図2> 学習方法



<図3> 学習内容



県ぐるみ 大きな輪になれ 交通安全

(新潟県交通安全スローガン)

公民館に

県生涯学習推進課長

去る3月10日、都市公運事務局
なお、都合により「新潟県立生涯
ては3面に掲載した。

涯教育推進のための公民館の役割」という報告がなされてい
す。そこでも、公民館の役割と
して、連携協力や生涯各時期の
学習機会の提供、学習啓発、学
習情報の提供、グループ・サー
クルへの援助、個人学習への援
助などがあげられています。が、
基本的には、先程の「生涯教育
基本構想」に述べている「住民
のサービスセンター」として公
民館が活躍してほしいというこ
とと同じです。更に、その提言
のあと、都市的地域・複合的地
域・農村的地域とに分けて、地
域類型による特色を考慮しなが
ら、それぞれの地域における公
民館のあるべき姿について述べ

ております。昭和61年のもので
すので少し古くはなっています
が、現在でもなお参考になる内
容であろうと思います。

さらに、昨年6月に、文部省
の生涯学習審議会社会教育分科
審議会施設部会から、「公民館の
整備・運営の在り方」という中
間まとめが報告されています
(詳しい内容については大方ご
承知のことと思います)。特に新
しい事項はありませんが、中央
公民館を生涯学習推進センター
として位置づけるということが
全国的に認められたという点で
前進があったと思います。

これらの提言の全てに共通し
ていることは、公民館とりわけ
中央公民館にあっては、従来
のような「学習する場所」とい
うだけでなしに、学習を支援する
情報とか、関係機関との連携協力
といった新しい役割が期待され
ているということです。この実
行は必ずしも簡単ではありません
が、各市町村において努力し
ていただかなければなりません。
県の生涯学習推進センター
は、いわば、この市町村の努力
に応え、これを支えていくため
に設置されるものです。県の推
進センターと市町村の中央公民
館、地区館分館等のネットワーク
を組んで各地域の、そして県

全体の生涯学習を推進していく
ため、推進センターに様々な相
談をされるなり、推進センター
の施設を利用するなり、積極的
に活用していただくようお願い
します。



学校週五日制と公民館

次に公民館にお願いしたいこ
とは、学校週五日制への対応の
問題です。ご存じのように、平
成4年の二学期から、(月一回か
ら)実施されるわけですが、こ
れは教育の大改革と言っても間
違ひはないと思います。

県の社会教育委員の会議で
も、平成2年度3年度と二か年
かけて「これからの在学青少年
に対する社会教育の在り方につ
いて」を主題として、学校週五

日制の導入を踏まえた審議をい
ただいております。現在取りま
とめの段階ですが、その提言で
は、学校週五日制は、学校中心
の教育観を転換して、家庭・社
会における教育の持つ意味と役
割を考えなおす契機にならなけ
ればならないということの基本
的な考えとしてあります。「学校週
五日制になったらどうしよう、
その受け皿を考えなければ
……」といった考え方だけでは
なく、学校週五日制を積極的に
捉え、この機会に社会教育自体
のレベルアップを図っていくと
いうふう捉えているわけ
です。その上で、様々な提言がな
されていますが、公民館など社
会教育施設に対しては、子ども
も訪れやすい公民館としていく
ため子ども向けの事業の充実な
どについて提言しております。

が大事だということでは、この
ことは、様々なところで、色々
な人が言っていることですが、
「まちづくり」でなければなら
ないということには三つの意味
があります。

第一に、生涯学習は、まち全
体で進める必要があるというこ
とです。教育・福祉・労働とい
った行政の各分野ごとに実施す
るのでなく、住みよい「まち」を
つくるための総合的施策とし
て、首長部局や様々な団体と連
携・協力しつつ進めていかなけ
ればなりません。

第二に、「まち」の個性を生か
した進め方で、まちづくりを考
えることです。まち独自の生涯
学習を育てていく工夫や企画と
いうものが必要です。

第三に、生涯学習のムードを
つくることです。町に対して誇
りと自信を持ち、そして、まち
の生涯学習に対しての自信と誇
りを持つことにより、自らまち
づくりとか生涯学習へ取り組ん
でいくムードを作り出すことが
必要です。

生涯学習のまちづくり

最後に、生涯学習推進課が発
足して一年間仕事を進めてきて
感じていることは、「生涯学習の
まちづくり」を進めていくこと
が大事だということでは、この
ことは、様々なところで、色々
な人が言っていることですが、
「まちづくり」でなければなら
ないということには三つの意味
があります。

生涯学習のまちづくりをすすめていく

新潟県交通安全スローガン

紫雲寺町中央公民館

少年少女ふるさと塾

干拓史劇「風雪のみずうみ」を上演

一、はじめに

紫雲寺町中央公民館に「少年少女ふるさと塾」というユニークな子どもたちの活動の場がある。

今、学校週五日制の実施を目前にして、学校・家庭・地域がその対応に揺れ動いている。そんな時、この「ふるさと塾」は大きく参考になると思われる。塾は塾でも、いわゆる学習塾とは本質的に違うもので、親たちもとより町を挙げて喜ばれ期待されている。

話は少し過去に遡るが、平成元年一月に、その「少年少女ふるさと塾」の活動として、大きな足跡を遺した子供干拓史劇「風雪のみずうみ」の上演の経緯と、今日に続いている「ふるさと塾」の活動の様子を紹介しよう。

二、少年少女ふるさと塾の概要
昭和六十三年四月、町内三小学校の児童を対象に「少年少女ふるさと塾」を開設。

1、ねらい
少年少女の充実した活動を図ることと、リーダー養成。

三、干拓史劇
「風雪のみずうみ」とは江戸時代享保年間、重度なる水害に苦しめられてきた、紫雲寺町の農民を救うべく、幕府から五千石の新田開発を許可された。その干拓にまつわる、長野の住人竹前権兵衛・小八郎の兄弟と地元住民の不屈の精神による血と汗と涙の苦勞の物語である。

2、構成

- ① スポーツ活動部(194人)
スポーツ少年団の育成
- ② 歴史活動部(24人)
干拓史劇活動
- ③ 自然活動部(24人)
緑の少年団活動
- ④ 社会活動部(25人)
オアシス活動

で出発したが、干拓史劇が成功裡に終了した平成2年度以降、次の二部門にまとめ、今日に続いている。

① スポーツ活動部
小学校4、5、6年生を対象として、スポーツ少年団の育成と、スポーツ活動を通じた健全育成をねらい、各種の球技大会や各種大会への参加、空き場の回収活動などの実施。

② 自然・社会活動部
小学校4、5、6年生を対象として、緑の少年団の育成を図り、自然とのふれあいの中で、心豊かな人間性を育てることをねらい、下越交流会、クリーン作戦、高齢者とのレクリエーション、宿泊研修などの活動。

歴史活動部は、この部に統合され、ふるさとの歴史や文化に親しむ活動を展開している。



論他の職員の協力のもとより多くの関係者の協力を得たことはいうまでもない。

四、上演までの経緯
当時の「少年少女ふるさと塾」の塾長(町教育長新野喜美夫氏)によれば、この干拓史劇に寄せた思いは、①ふるさと学習の一環として、ふるさとの歴史を学ばせ、ふるさとを愛する心を育て、ふるさと創りの意欲を喚起させたい。②演劇の良さを学びとらせ、演劇の体験を通して「おもしろさ」「楽しさ」「感動」を味わわせたい。③町内三小学校の子ども同志、親同志の連帯感を強めたい、としている。ここに、詳細の歩みを記す紙幅はないが、主なものをあげると、

たまたま、昭和60年が干拓250年に当たることから、先人の努力によって今日の美田があることに感謝して干拓劇を作成したものである。

脚本は前進座の田島栄氏に依頼し、演技指導や塾活動の指導は、小林豊男・桐生美砂子両公民館主事が担当して進めた。無

今後は中学生になっている当時の塾生が、平成3年度の「町生涯学習振興大会」の機会に発表者として、町づくりの夢を語るとともに、「私は農業を継ぎたい」と堂々と発表していたという。今もなお干拓史劇の成果が脈々と生きている「少年少女ふるさと塾」である。

しかし、この「ふるさと塾」の問題点は、中学生になると切れてしまうことである。だから、中学生をどう取り込むかが課題であると、小林主事さんが語っていた。(平成四年一月探訪)

以下、江戸時代の農民のくらし体験 紫雲寺湯周辺一周の旅、電気のない暮らし体験、あんどんづくり、大根葉っ葉めし、夜なべ仕事や朝仕事などの体験学

昭和62年春、郷土史の専門家、学校関係者、PTA、役員関係者などの協力と指導助言を得ながら、演劇上演に向けての基本構想を練る。

○昭和62年夏、前進座の田島栄氏を招き、資料収集や町内めぐりをし、脚本の構想を練る。

○昭和63年3月、脚本完成。

○同年4月、少年少女ふるさと塾開講。

参加した塾生たちは、昔使われた言葉の学習や、他校の生徒たちとの交流など得難い体験をしたわけだが、父母たちも子どもの送迎や衣装づくりなどを通して親子のふれあい、親どうしのふれあいなど貴重な収穫があったと言っている。

その後の「ふるさと塾」は既述のとおり二部門に統合されたものの、干拓史劇の感動は今に生きて続いているという。

サークル交流

手話と見学と交流を?

燕市手話サークル「愛」

燕市手話サークル「愛」は、十数年前に結成以来二十数名で続いています。紹介の写真でお分かりのようにクリスマスパーティーには家族の出席があり、賑やかさで溢れています。例会には毎週木曜日で、午後七時には皆さんの奉仕により手話の研修会場作りから始まります。最近では生活使用言葉をまとめながら、ワープロ印刷してテキストにしています。健聴者は指文字や手話の手ほどきなどを障害者に教

えられている状態なのですが、顔の表情の他に、体の全体を使い面白く表現して下さいます。で、楽しくさせて頂いています。

なお、世界に輸出している洋食器の燕市は、越後平野に在り、信濃川分流中之口川に沿って発祥し、発展しています。

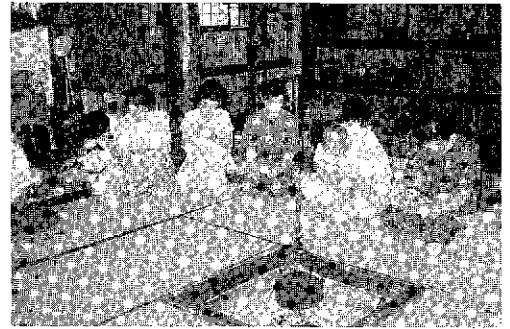
近くの弥彦山への手軽な登山、吊り橋を渡って行く良寛様ゆかりの五合庵への散策もお薦め出来ます。もちろん、洋食器の買物と製作手順の見学は商業卸団地の共同展示館へ。

ぜひ、サークル交流の機会をご連絡いただきたい。(会長 樋木久一郎記)

わが町の生涯学習

能生町ふるさと学習サークル

サークルの発足は平成二年で、町内の同好者五十余名で組織している。設立総会では「能生町古代ロマンへの誘い」と題して発掘中の縄文中期の十二平遺跡について学習した。毎月の定例学習は、会員を講師にして町史を学習しており、この三月で一応、上下巻を完了する予定である。そのほか、十月下旬に



巡検を実施した。方面は、松之山の隠れキリシタンと秘境秋山郷であった。すばらしい好天に恵まれ、目もさめるような紅葉をみながらの学習で、大変好評であった。

また、会員の調査研究を発表する機関誌「温故知新」を発刊しているが、投稿者発掘の悩みがある。また、直接のサークル活動ではないが、会員の有志によって漁村民俗誌「いそべたの民俗」を編集中である。古くからの純漁村の民俗と回船業や出入りについてまとめ、貴重な郷土資料として期待されている。

(利根川晃義記)

上越市立公民館直江津地区館主任 岩本 義明氏 (55歳)

一枚の植物画を見た。その精細で色彩の精巧さに驚き本物ではないかと思つと手を触れてみたのはついこの間のこと。上越植物の会に入つて17年、そのときから始めたというだけにその描写技術はたいしたもの。将来は植物画の本を出版したいと夢を持っている。公民館勤務を振出しに社会教育畑を10年、今回二度目の公民館勤務となる。



度目の公民館勤務となる

素顔拝見

大和町公民館主事補 米山 和彦氏 (19歳)

昨年七月、新採用で配属された、色白で丸顔、眼鏡の奥のやさしい瞳はまさに公民館むきである。



現在の担当は体育係であるが、持前の体験熱心から、

本人の趣味、得意は中学生、高校生と続けてきた吹奏楽であるが、中学生のとき「さわらびホール」の舞台、音響、照明の操作技術の講習を受けて以来、このことにも大いに研鑽を積み、公民館が催す「さわらび」の催事のときは、よくボランティアとして操作に参加してくれた。

アルペンスキー、距離スキーの基本もマスターしたほか、体育指導委員と共に、各集落の軽スポーツの指導にも当たっていて、町民から親しまれ、米山さん居ますか、米山君をお願いしますと云う電話が多く、公民館のアイドルである。

今後益々町民の中の公民館職員として、がんばってほしい。(大和町公民館長 森山新記)

る。教育産業が盛んになっている中で担当している二分館の活動の難しさをこの一年間肌で感じたという。しかし、人と会うことが、話し合いた活動的なことが楽しみと言うだけにこんなやりがいのある楽しい仕事はないと言う。なぜか公民館活動のために生まれてきたような人。これからも地域住民の中にとけ込んで住民の期待に応える楽しい公民館活動を企画し活躍してくれることを期待している。(上越市立公民館長補佐 太田正文記)

